学校保健

SCHOOL HEALTH

2022. 1 No.352

公益財団法人
日本学校保健会
JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH
https://www.hokenkai.or.jp/

子どもたちの心身ともに健やかな成長を願って

年頭所感

公益財団法人　日本学校保健会　会長　中川　俊男

新年明けましておめでとうございます。

平素より子どもたちの健やかな成長を願って活動されておられる皆様に深く感謝を申し上げます。昨年は、一昨年度から続く新型コロナウィルス感染症への対応に追われる１年となりました。繰り返される緊急事態宣言の中、変異ウィルスの猛威は児童生徒にも感染が及ぶ状況になりました。

学校には、現在も新しい生活様式に沿った感染症対策による教育活動が続けて求められており、学校関係者の皆様には多大なるご尽力をいただきました。感染症対策の徹底など様々な要因によって感染者数は減少しているものの感染再拡大を防ぐため、予断を許さない状況は続いております。

このようなウィズコロナの学校生活が続いている状況に鑑み、昨年は新規事業として『学校における感染症対策事例・実践集』の作成を行うとともに文部科学省や感染症を専門とする先生方によるYouTubeセミナーを開催するなど学校が求める情報提供に努めて参りました。「学校等欠席者・感染症情報システム」についても校務支援システムとの連携事業を進め、より多くの自治体に登録していただけるよう入力作業の簡素化を図るための改修を進めたり、本システムの有用性について理解を促進するためのオンライン研修会を実施したりしました。

一方、『学校におけるアトピー性皮膚炎Ｑ＆Ａ』や運動器の検診についての手引き作成も進め、学校が抱える課題への対応を図っております。

本年も我が国の学校保健の向上・発展のために積極的に事業を推進して参ります。皆様にはより一層のご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも本会へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。今年こそ新型コロナウィルス感染症が収束し、日本の子供たちが、新しい年を笑顔で心身ともに健やかに過ごしてくれることを願っています。

主な誌面

特集　学校における感染症への対応　2～9
令和４年　新春座談会　10～11
全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤　鳥取県立鳥取商業高等学校
令和３年度各地区ブロック大会報告　12
令和３年度全国学校保健・安全研究大会報告　13
令和３年度全国健康づくり推進学校表彰校一覧　14

令和３年度　日本学校保健会事業報告会（オンデマンド開催）

主催／公益財団法人日本学校保健会

詳細・お申込みは、本会HPか学校保健ポータルサイトで！

配信期間：令和４年２月24日(木)～令和４年３月23日(水)

対　　象：都道府県・指定都市学校保健（連合）会、都道府県・指定都市教育委員会関係者、教職員、研究者　等

参加方法：①ポータルサイト「学校保健」へアクセス
②「事業報告会　参加登録」ページに必要事項を入力して送信
③登録したアドレスにパスワードを記載したメールが届く
④配信期間内に再度、ポータルサイト「学校保健」へアクセスし、ログイン画面にメールアドレスとパスワードを入力する

日本学校保健会の事業報告のほか下記成果物の解説等を行います。

構　成	内　容
事業報告	令和３年度事業報告書（PDF掲載）
委員会報告①（30分）	『学校における感染症対策事例・実践集』について
委員会報告②（30分）	『学校生活におけるアトピー性皮膚炎Q&A』の改訂について
委員会報告③（30分）	『運動器検診の手引』について

回覧	校　長	教　頭	保健主事	養護教諭	栄養教諭・学校栄養職員	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年６回（奇数月）の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。

令和４年
新春座談会

学校における感染症への対応

国立感染症研究所感染症疫学センター
予防接種総括研究官
多屋　馨子

文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課
課長　**三木　忠一**

全国養護教諭連絡協議会
会長　**小林　幸恵**

公益財団法人日本学校保健会
専務理事　**弓倉　整**

コーディネーター：
茨城大学教育学部
教授　**瀧澤　利行**

（敬称略）

瀧澤　明けましておめでとうございます。新年早々ではございますけれども、新型コロナウイルス感染症をほぼ2年近く経験し、健康被害を受けられた方には大変だったことと思いますが、学校保健の点から、また公衆衛生の点からもいろいろな教訓を得られたと思います。

今回は各分野の先生方にこの約2年間の状況を総括していただきながら、今後に向けて、子どもたちの健やかな発達を遂げていく上でどんな工夫をして生活の在り方を考えていったらいいか、そんなことをお話させていただきたいと思います。

まず多屋先生から、ご専門の立場から今回のパンデミックの特徴と約2年間の流れをどのように捉えておられるかお話を伺いたいと思います。

多屋　新型コロナウイルス感染症は2019年12月、中国で初めて見つかった感染症で、2020年3月には世界中に広がり、パンデミックの状態となりました。全てのことが新しいもので未知なものに対する怖さもあったと思いますし、当初はワクチンもなく、どのように対策をとっていったらいいか皆さんが試行錯誤の中でこの感染症に立ち向かってきたと思います。すでに世界中では2億人を超える多くの感染者が出てしまい、そして500万人に近い数の方が亡くなられているという状況で非常に重篤な感染症だと思います。国内でも多くの方がこの病気で命を落とされました。

子どもたちは学校での生活が今までと比べると大きく制限をもたざるを得ない状況になっていまして、多くの行事が中止になるなど普段とは違う生活を送っていると思います。

私がよくお話しするのは、ワクチンがない病気もたくさんある中で、新しい感染症には「知るワクチン」という言葉をよく使います。「知る」ということは、とても大きな感染症対策の一つだと考えています。感染症は、感染源、感染経路、感受性、この三つがなければ成立しません。感染源対策があって、感染経路対策があって、そして感受性対策になります。どういう感染経路でウイルスが次から次へと移っていくのか、そしてそれを断つ方法はどうしたらいいんだろう、どういう消毒が有効なんだろう、どういうことをすればウイルス対策ができるんだろう、とさまざまな情報を知っていただく、知るワクチンということをお話させていただきます。

今はワクチン接種も進みまして、日本は始まるのが遅いと随分いわれましたけれども、どこの国よりも高い接種率になっていると思います。第5波も、ここまで減少するとは思わないぐらい今は少ない状況ですが、ただまだゼロになっていませんので、これから人が集まる機会が多くなっていく冬を迎えて、私たちはどう対策をとっていくのか、先生方と一緒に考えていきたいと思います。

瀧澤　長い感染症対策の経験の中で、今回の感染症の対策の要点としてよく三密を避けるということがいわれ、特に学校のように人が集まる場所ではいろいろな工夫がされたと思います。各学校で行われた努力に対してどのような所感をお持ちでしょうか。

多屋　新型コロナウイルスは飛沫感染、接触感染を中心に感染が広がっていきます。飛沫感染対策として三密を避けるというのも大きな一つだと思います。そしてマイクロ飛沫による感染があるといわれるように換気がとても大事であるということも分かってきました。マスクも飛沫をなるべく飛ばさないようにするという効果は大きくあると思います。なぜマスクを着けるのかということを知っているか知っていないかで、随分変わってくると思うんですね。

それから当初は、消毒には次亜塩素酸ナトリウムとか、アルコールとかが必要といわれましたけれど、アルコールが手に入りにくくなったこともあり、例えば他のこういうものでも、ウイルスが減る、不活化されるということが証明されてきたことや、お掃除もいろんなところを消毒されていたと思うのですけれども、いろんなことが分かってきて、お掃除は定期的に拭き掃除でも大丈夫ですとか、手がよく触れるところですとか、厚生労働省から資料が出されました。ですから、普段の生活をあまり制限することなく、ウイルスをどうしたら、なるべく減らせるかということを「知っている」ということが大事です。

学校ですと、例に挙げると一番いいのは手洗いじゃないかなと思います。これは新型コロナウイルス感染症に限ったことではないですけれども、文部科学省から出されている「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」がありますよね。手洗いのところに、例えば100万個のウイルスが手に付いていたとします。一回、せっけんを使って洗うと、これが何分の1になります。それを2回繰り返すと、さらにこれだけ減って、せっけんによる手洗いで、これだけ付着しているウイルスを減らすことができますということも説明してくださってるんですね。すごく、子どもたちにも分かりやすいなと思います。

低学年であれば、洗い残しやすいところは特にこういうところだよという、手洗いの絵を水道の横に貼って教育をしていただいたりしていると思います。新型コロナウイルスに特化することなく、全ての感染症にも関わる知識を今回は付けてもらうことができたのかなと感じています。

三密を避けるというのはその一つ、そして感染のリスクが高まる五つの場面というのも、厚生労働省から出されていますが、大人を対象としている部分が多いですけれども、多くの方が集まってお食事を一緒にされて、アルコールなどもその中に入っていると、どうしてもマスクを外してしゃべってしまう。どんどん声が大きくなってきて、飛沫が飛んでしまう、そういう環境をなるべく今は避ける、そんなことも大事なのかなと思います。

ただ子どもたちにとって学校は生活の大きな一部分になりますので、学校生活を平常に戻すのは難し

いですけれども、なるべくできることは進めていってあげてほしいなというのは親としての私の願いでもあります。

瀧澤　今回、文部科学省ではさまざまな新型コロナウイルス感染症に対する対策もいろんな形で矢継ぎ早に出していただきました。それによって学校もやることはたくさんあったわけですけども、学校で大きなクラスターがたくさん出るということも幸いにしてだいぶ抑えられた。

今般、感染が広がりつつあった当初には、政策的に休校措置がありオンラインによる授業などちょうどGIGAスクール構想もあって、学校はICT教育に一足早く踏み出すきっかけでもあったと思います。文部科学省として政策上のポイントがあったかということについてお話しいただけますでしょうか。

三木　本当に子どもたちのことを考えていただいて、養護教諭の先生を中核としながら教職員が一丸となり、個々の学校での感染対策をやっていただいたというふうに思っています。国として、教育行政の担当者の1人としても心より感謝をしています。医療関係者や感染症対策の先生方とお話しする中でも、学校が一番感染対策を頑張っているというお褒めのお言葉をいただくようなこともありました。学校現場の先生がたの子どもたちを思った頑張りのおかげだなというふうに思っています。

やはり子どもたちは学校を非常に楽しみにしていて、比較的小さい幼稚園、小学生だけでなくて、高校生ぐらいでも明日は学校があるんだというようなことをうれしそうに話すと私もよく聞きました。子どもたち一日一日の成長の過程において、学校が学び、勉強の場だけではなく生活の場であり、そして心身の健康を育む、そしてそれが友達同士と関係性を育みながら育っていく場だということが、この間を通じて社会全体として改めて認識されたと思っています。

子どもにとってかけがえのない教育機会が継続できるように、ときどきの最新の知見を基に感染症対策を徹底して教育活動の継続を図ってきたというところがポイントかと思っています。多屋先生がおっしゃったように新型コロナウイルスが未知のものであり、この2年それに対応してきたということで積み重なってきたものや明らかになってきた知見を基に対応をしてきたのかなというふうに思っています。

例えば子どもの主な感染経路が家庭内感染であるといったこととか、変異株であっても基本的な感染対策が推奨されるということであるとか、それから子どもは他の年齢層に比してよく感染するといったようなものではないといったことであるとか、若年層の重症化率は他の年代と比べて低いというようなことが次第に明らかになってきました。そして大人だけではなく子どもも不安やストレスをずっと感じてきたというようなこともわれわれ実感がしてきたことです。

そういうことから、さまざま対策を打ってきたわけですけれども、休校措置の考え方としては、一昨年は全国一斉の休業措置を国がお願いしましたけれども、明らかになった知見を基に、昨年は国として全国一斉の休業措置をお願いするというようなことはしませんでした。特に小中学校についての休校についてはできる限り避けるべきという基本的な考え方を示してきたところです。

とはいえ、地域の感染状況に応じて、一部の地域の休校とか、学校における感染者が出ることによって学級閉鎖、学年閉鎖等、休校措置をとっていただくことは十分にあり得ますし、実際行われてきたところだと思います。その際、先ほども少しお話のありました、ICTを活用して学びを止めないようにしていただくということをお願いしました。

あと運動会とか修学旅行とか中止をすぐ決めてしまうのではなく、地域の感染状況を踏まえ保護者の方々の理解も得ながら時期や場所、時間など開催方法に十分配慮して、実施に向けて適切にご対応いただきたいということをこれまで発信をしてきたところです。

要はそのときどきに分かった感染症の知見を基に感染症対策を徹底しながら、できる限り子どもたちの楽しみにしている学校の教育活動を継続していくということを目指してやってきたということです。

瀧澤　学びを止めないという、明治以来、太平洋戦争のときも学校は何とか学校活動をしてきたという日本の学校教育の一つの在り方を、感染症の拡大の中でも文部科学省としてはお考えいただいたと思います。学校でこの要請を受けて大変だったことがたくさんあろうかと思うのですけれども、学校保健、あるいは学校教育として感染予防と教育の両立をどのようにやってきたのか、いろいろお聞かせいただけますでしょうか。

小林　全国の養護教諭たちがこの感染症対策に本当に献身的に今も取り組んでいます。私は、感染症対策というのは個人ではなく学校全体で、チームで取り組むことで成果が上がるというふうに考えます。当初は教職員の温度差が正直ありました。そんな中で、教職員全体が共通理解を図って共通行動につなげられるように、養護教諭としてコーディネーター役を果たせるよう努めてまいりました。本校はおかげさまで、チーム学校として、うまく対応ができてると思います。

新しい生活様式を取り入れるとなったときに、学習場面であったり、給食であったり、清掃であったり、一つ一つの教育活動にどう取り入れるかというところを各校務分掌の主任、保健主事、関係職員と情報共有する中で、やはり養護教諭がリーダーシップを発揮して提案や助言をして協働できるような体制を心掛けてやってまいりました。

あとは保健管理を徹底するというところで、知見がなかった当初より感染症予防の三原則を忠実に対応することを心掛けてまいりました。管理をするときには必ず教育が付いてきます。全国の養護教諭たちは、子どもたちにマスクを着けなさい、手を洗いなさい、それがなぜ必要なのかということを発達段階に応じてしっかり教育、理解をさせて行動変容できるように指導管理をしていると思います。保健管理と保健教育の一体化もポイントだと思います。

それからやはり心のケア。当初は、子どもたちの不安というところから、だんだん差別や偏見についても取り組みました。その後は、うまく環境の変化に適応できない子どもたちが多く出てきてしまい、子どもたちの心のケアは今も継続して行っております。

瀧澤　新しい生活様式に移行していくときに、子どもたちはどんなギャップを感じたのでしょうかね。

小林　感染症に対する不安の捉え方も子ども一人一人によってすごく差がありました。全然怖がらない子どももいれば、本人が感染すると家族に影響してしまうと一歩も外に出られなくなってしまう子もいました。こんなにも子どもにとって感じ方が違うんだなと実感しました。

瀧澤　その場合、学校として学習支援は担任の先生がされたんですよね。

小林　はい。今も個別対応をとっている学校が多くあると思います。

瀧澤　いままでのお話の中で、特に弓倉先生は通常診療で地域医療に従事しつつ、学校医をされて、子どもの健康管理に責任を負われ、その両方のバランスをとりながら、どのように学校に対するサポートをお考えになられたのでしょうか。

弓倉　今回の新型コロナウイルスは全く未知のウイルスでしたので、特に3月の一斉休校の頃から始まりわれわれは非常に戸惑ったというところが実際のところかと思います。学校医という立場になりますと、一つには学校健康診断、それから二つ目は養護教諭のみならず校長との面談が増えたこと、3番目が、新型コロナに感染した児童生徒や、濃厚接触になった児童生徒の取り扱いについての相談があったかと思います。例えば発熱外来では、われわれは完全な防御体制のPPEを着て診察をするわけですけども、健康診断に行きますと、なかなかそういう形でやるわけにはいきませんね。内科校医の場合には、ある程度マスクとか手袋ぐらいで済むところがありますが、例えば耳鼻科校医、眼科校医、歯科校医、それぞれに工夫をしなければならなかったというような課題があったかと思っております。

あと養護教諭の先生との連携は、先ほど三木課長もおっしゃられましたが、大きな学校行事を中止せ

ざるを得ないのか、あるいは文化祭でこれだけ人を入れてこのような態勢でやることについてどう思うかというようななどかなり具体的な相談がございました。特に修学旅行はキャンセル料の問題から早いうちに態勢を決めなければいけないということがあり、第5波の真っ最中のときに、秋の修学旅行どうするかというようなことを相談されたり、先の見えない中で感染の増え方を見ながら学校医としてのお話をさせていただきました。

私のいるところでは教育委員会から修学旅行、文化祭の開催は校長判断に任せるとなったりして、校長先生も学校医の意見として受け取って保護者の方に説明してもよろしいですかという状態までまいりましたけれども。でも、そういう中で対応するのが専門家としての学校医だと思います。

あと、やはりコロナに感染した児童生徒、濃厚接触者の問題ですね。私立の場合は、通学範囲がかなり広く、保健所管轄を別のところから来ている児童生徒について、濃厚接触者の定義がマスクを着けているか着けていなかったかで違う場合があり学校も戸惑って養護教諭から相談を受けました。医師会は当該保健所の判断に任せるという回答だったので、学校には当該保健所の指導に従うようにお伝えしましたけれども、最初のころは濃厚接触者の定義が国で示したものとちょっと違うんじゃないかということでいろんな相談を受けたこともございます。公立はそういうところはあんまりないのかなと思うんですけれども、ありましたか。（小林先生うなずく）新型コロナウイルス感染症が未知の感染症で、みんな初めての経験で、しかも感染状況がどれだけひっ迫していたかということに影響されるんだろうと思いますけれども、学校医として適切な助言与えるようにしてきたつもりです。

瀧澤　小林先生、公立でも似たようなことがあったということで、実際に学校行事など思い出に残るものに関して教えていただけますか。

小林　やはり感染状況に応じてですが、最初は感染拡大を恐れてとにかくやらないほうがいいというような意識が正直学校もありましたが、子どもたちを見てきて、今できる方策は何か考えるようになりました。運動会では、保護者等の人数制限や入れ替えの目印にリストバンドを着ける等工夫をして保護者のご理解ご協力をお願いしました。今は行事一つ一つに感染症対策という項目を入れて、できることをやっていくというスタンスで取り組んでおります。

瀧澤　大体の行事関係、形は変えたにしても第2波以降は大体できましたか。

小林　本校はできる範囲でやっております。中止ということはなくなりました。

瀧澤　学校の努力で中止しなかったということは、こういう形が教育行政としても望ましい感染症対策と教育活動の両立というふうにお考えいただいていいわけでしょうかね。

三木　昨年は第5波がありましたので、地域の感染状況に応じて延期をしたり、形を変えてできたところと、結果的にいろいろ探ったけれども、中止せざるを得なかったというところは、そのときどきの状況によって、いろいろあるんだろうなというふうに思います。ただ、それぞれの学校とか地域でどうしたら子どもたちの喜びや楽しみ、学びの意欲、そういうものに応えられるだろうと学校現場の先生方、皆さん考えていただいたと思いますね。

瀧澤　先ほどの「知るワクチン」「知識のワクチン」という考え方は、素晴らしいですね。今後いろいろな感染症との遭遇をわれわれは経験せざるを得ない、そんなときに新型コロナウイルス感染症に限定しない、いわゆる知識のワクチンという考え方を教育内容的にも検討いただくことは可能なのでしょうか。

三木　それは重要なことですね。まさに大人も子どももいろんな知見を得て生活をしながら、プラクティカルに学んでいる状態だと思います。単に頭で覚えた知識ではなく、手洗いをする、うがいをする、換気をするみたいな、実践をして子どもたちが実際に自らや家族・友達を守る中で学んでいるので、生きる教材として、引き続きしっかりと学んでほしいし、われわれ文部科学省もしっかりとサポートしていきたいなというふうに思いますね。

瀧澤　ありがとうございます。小林先生のお勤めは小学校ですが、日常の生活の中で子ども同士が身体接触をせざるを得ないところもあろうかと思います。そ

こはきちっと注意しようみたいな、生活指導だとか、保健指導は工夫されていると思うのですけれども、子どもたちの捉え方はどうでしょうか。

小林　今までも手洗い指導等は行っていましたが、習慣化とか身に付かなかったことも多くありましたが、新型コロナに関しての感染症予防教育を学校で行ってきて、ほとんどの子どもたちに予防行動が身に付いてきています。可視化できるよう掲示物を作っていろいろ工夫しているんですね。そういったものに触れて、ソーシャルディスタンスや換気なども子どもたちが自ら気付いて行動ができるようなプラスの面が出てきています。

瀧澤　給食はどうですか。まだ黙食でしょうか。

小林　給食は黙食です、まだ。

瀧澤　多屋先生、給食はしばらく黙食続けていくほうがよろしいんでしょうかね。学習指導要領だと、社交性で何とか、皆さん楽しく話しながらの給食も、学級活動の目標の一つに入ってたりもするんですけど、どうでしょう。そろそろ、少しだったらお話ししていいっていう状況になってきているでしょうか。難しいところでしょうかね。

多屋　まだ私の職場の食堂も、黙食と大きく看板が掛かっておりまして。食べているときはどうしてもマスクを着けられませんので、飛沫をなるべく飛ばさないようにするということからは、まだやめる状況にはないですね。

瀧澤　ありがとうございます。また、新しい生活様式も少しずつ子どもたちの中にも入ってきている中で、やはり私たちの目から見ているとまだマスクもウレタンものがかなり使用されています。ここまで不織布製とウレタン製のマスクとの違いをいわれてもなかなか行動変容につながっていかない。日常でこういうところを変えていったら、もうちょっとわれわれも楽に生活できるんじゃないかなと思われるところってあるでしょうか。

弓倉　なかなか難しいですね、今のところ。第5波が済んだ後で第6波がいつ来るのか、あるいはインフルエンザがこの冬はやるかどうか。動向を注目する中でやはり今やっている感染防御の態勢を大きく変える必要は恐らくないでしょう。ウレタンマスク着用はヘルスリテラシーの課題だと思うんですけれども、一つにはファッション化だと思うんですね。ですから、ファッションという考え方でマスクを着けることが悪いとは思わないので、ウレタンマスクが不織布マスクよりも効果が劣るということを認識した上で、例えば二重にするとかきちんと対策をする、そのような啓発を少しずつしていけばよろしいのではないかなというふうには考えています。

瀧澤　小林先生、小学生はまだ、そういうファッションまで気をめぐらす子どももいないのかもしれませんけども、保護者のほうでおられるかなと思うんですけど。知識の水準の問題ですよね。どんなふうに捉えられていますか。

小林　難しいです。やはり不織布製は使い捨てでコストがかかってきますので、経済的なこともあって一概に言えないという現状もあります。布マスク、ウレタンマスクを洗濯して使ってる子どももやはりいますね。

瀧澤　一概には言えないにしても、やはり少しずつ、次善の手段として何が望ましいのかということを、私たちも情報共有しながら考えていかなければいけないってことなんでしょうね。

小林　子どもに対しては正しい情報や必要な知識は伝えて、自分で選択、判断できる力をつけてあげたいと思うんですが。保護者に関しては、情報までは伝えられても、あとは保護者の方の判断というところにもなるのかなという感じはしますね。

瀧澤　今、希望的な側面も含めながら日本国内に限って言えば少し収束の方向に向かっているかなと思われるような感染者数なんですけども。先ほど弓倉先生がおっしゃったように、冬に向けてさらにもう一度再拡大があるか、あるいはインフルエンザとの混合感染が起こってくるか予断は許さないところだというなかで、学校を中心とした感染症対策の中で今後こういうところに留意して、日常の生活を進めていきた

いというようなところに対してのアドバイスがあればお伺いしていきたいと思います。

まず多屋先生、この点をぜひ配慮して今後生活していっていただきたいということをお聞かせいただけますでしょうか。

多屋　感染症は誰がかかっても不思議ではないと思うんですね。感染症にかかった人というのは決して悪いことではないと思うんです。それが子どもたちであっても、教職員であっても、もし感染してしまったら、あるいは濃厚接触になってしまったら、それが治って、あるいは期間が終わって学校に出てきたら、大丈夫だった？大変だったねって、優しい声を掛けてあげられるような学校であってほしいといつも願っています。感染した子どもや教職員の方がつらい思いをすることは決してあってはならないなと思うので、かかった人を温かく迎えられる、そんな社会、学校をつくっていってほしいと心から願っております。

瀧澤　大変心強いお言葉いただきまして、ありがとうございました。では、三木課長よろしくお願いします。

三木　この間、国としても対策を考えるにあたって非常にありがたかったのは、各学校での感染状況の情報のデータを基に対策を打ててきたということがあります。日本学校保健会で運営している学校等欠席者・感染症情報システム、それから新型コロナウイルスについては各学校から感染者が出た場合に教育委員会を通じてご報告いただいている、この二つで感染状況を把握しております。学校等欠席者・感染症情報システムは今後の展開にあたっての対策のベースになりますので未加入のところはぜひ登録していただきたいです。

2点目は、十分やってはいただいてると思いますけれども、換気をしっかりやっていただきたいなというふうに思っております。他の季節よりも真冬はどうしても窓を閉めたくなるという時期です。

3点目は、学校で感染対策に必要なものを買っていただき感染対策をしっかりやっていただくために経費を補正予算で措置をしてきております。令和3年の補正予算で学校の感染症対策の経費として254億円を確保しています。

ですので令和3年の補正予算をご活用いただいて、令和3年の残りから、来年度において、各学校で必要なものは範囲内でしっかりお使いいただいて、感染対策に役立てていただければなというふうに思っております。養護教諭の先生が先頭立って頑張っていただくわけですけれども、時々、保健室はなかなか必要なものがそろってないというような声も聞くこともあります。感染症対策のものであればこの予算が使えますのでぜひとも必要なものは買っていただき、それを使って学校の感染対策を頑張っていただければ非常にありがたいなと思っています。

瀧澤　小林先生、今後の抱負、こんなふうにしていきたいということをぜひお願いいたします。

小林　本当に予算面での措置はありがたく、できることが増えてきたというのが事実です。予算措置は引き続きよろしくお願いしたいと思います。

2点目は、学校ではいろいろな対策をする中で、文部科学省のマニュアルに基づいてやっています。教職員の負担を軽減するための施設消毒のやり方であったり最新の知見によって改訂していただいておりますがどうしてもまだ教職員の負担があります。子どもの安全を守りながら、どうやって教職員の負担を軽減できるかを常にPDCAサイクルの繰り返しで考え実践しているので、それは継続していかなくてはいけないことと思っています。

3点目は、子どもたちの感染予防行動が身には付いてきてるんですが、朝の検温、健康観察などややもするとマンネリ化してしまっています。マンネリ化してしまっているところにまた一手を打たなくてはいけないのかなっていうふうには感じております。

瀧澤　日本学校保健会は各学校に対してさまざまな情報提供やサポートをしていく立場にあると思いますけれども、こんなことを進めていきたいという抱負を弓倉先生からお願いしたいと思います。

弓倉　3点ほどございます。一つ目は三木課長がおっしゃった学校等欠席者・感染症情報システムの充実です。これにつきましては厚生労働省から科研費研究として取り上げていただき、また文部科学省からも予算をいただいて、できるだけこのシステムを使いやすく、そして結果を養護教諭の先生方、現場の先生方がより早く、しかも具体的に見える化しようということを今やっているところです。これからウィズコロナが続くかもしれません。また新しい感染症もいつ出てくるか分かりませんので、未加入のところはできるだけ早く加入をしていただき、使っていただきたいと思います。

二つ目は、子どもたちのヘルスリテラシーですね。日本学校保健会では、健康づくり啓発ポスターコンクールという事業やっておりまして、大体、毎年1500枚ぐらいの応募があるのですが、一昨年はそれが7000部に増え、それだけ健康に対する関心が増えたと思うんですね。去年は3000部ぐらい下がってしまいましたけれども、それでも例年の倍の応募があるということは健康に対する関心が子どもたちの間で高まってるということだろうと思いますので、引き続き情報を発信していきたいと思っております。

あと三つ目、これは現場の先生方や学校医への情報発信の仕方です。文部科学省から学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを作っていただきましたけれども、まだこういうことが分かってないのかなとか、もっと丁寧に言わないといけないのかなというような質問もお受けすることがございます。今まで対面で集まらなければならなかった研修会が、オンライン研修会という手段も使うことによって、対面ではとてもかなわない数の参加者を集められるということもございますので、うまく利用しながら、現場の先生方、学校医の先生方に対して広く満遍なく正しい知識の発信に努めていきたいと思っております。

瀧澤　日本は先進国の中で感染者はそれなりにあったにしても、例外的に死者が少ないという結果ができたのは、いろいろな要因があるかと思います。やはり日本の公衆衛生システムの中で学校保健が成熟していて、それが機能していたということが一定の抑止力になり得たのかなと個人的には思っております。

今後は感染症と共にある中で、できるだけ私たちの知恵の出し合いで何とか子どもたちの学びと発達を支援していけるような場をつくっていきたいと思っております。先生方どうもありがとうございました。

（座談会は感染対策に十分留意して行われました。2021年11月収録）

ツボミスクールからのお知らせ

Wacoal Tsubomi School.

ワコール「ツボミスクール」とは、小学４年生から中学３年生までの成長期の女の子とその保護者、養護教諭を対象に、株式会社ワコールが行っている下着教室です。

Q. こんな質問や相談にお困りではありませんか？

バストトップが目立ち胸の先がチクチクする･･･（児童・生徒から）

体育着のときの下着はどうしたらいいの？（担任から）

いつからブラジャーをつけたらいいですか。（保護者から）

全国の小・中学校にてオンラインで開催いただける「ツボミスクール」をお役立てください。

オンラインで開催中

● 来年度のご指導にご検討ください。

※開催費は無料です。 ※資料や教材はワコールにて準備いたします。
※オンラインはZoomを使用します。 ※スクール中に商品の販売はありません。

無償教材のご案内

成長期のからだや下着についてご指導いただけるテキストや動画を無償で配布しています。

お申し込み期間

第3回　受付期間：2021年10月1日～2022年1月31日
発送期間：2022年2月上旬～2月中旬ごろ予定
（受付と発送は年3回に分けて行っています。）

ツボミスクールの詳細やお申し込みはHPから

※スマートフォンからもご利用いただけます。 ツボミスクール 検索

【お問い合わせ先】ワコールスクール事務局
e-mail：tsubomi@wacoal.co.jp

WACOAL

全国健康づくり推進学校表彰校の実践⑤

笑顔輝く鳥商生・地域に貢献できる社会人となるために
～基本的な生活習慣を確立し、基礎体力を高める実践～

令和２年度最優秀校　鳥取県立鳥取商業高等学校

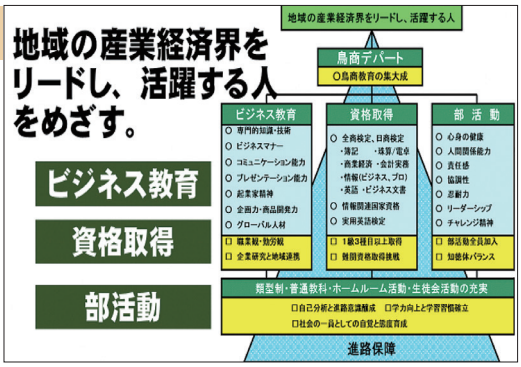
１　学校紹介

本校は本年度で創立110周年を迎えた伝統校である。目指す人物像として「地域の産業経済界をリードし、活躍する人」を掲げているため、ビジネス教育に力を注ぐことは勿論、資格取得（全商検定１級３種目以上、日商検定等の取得）にも励む。部活動も本校教育の柱のひとつとしており、心身の健康のみならず、責任感・協調性・忍耐力・リーダーシップ・チャレンジ精神等、社会に出たときに「即戦力」となる人材となるべく力を培っている。

２　学校経営方針と健康づくり

学校経営方針としては、「ビジネス教育、資格取得、部活動」を３本柱とし「地域の産業経済界をリードし活躍する人をめざす」ことを目的としている。鳥商生としての自覚と誇りを持ち自ら考え判断し行動できる生徒の育成を図っている。

人生100年時代において、高校生の今、基本的な生活習慣を確立し基礎体力を高めることが大切と考え、学校経営の中核に健康教育を据え、それを土台に様々な教育活動を行っている。



【学校経営方針】

３　特徴的な活動、特色ある取組

(1)「基礎体力づくり・集団づくり・鳥商生としての自覚づくり」の実践

①　商高体操

昭和40年当時の体育科教諭が考案し長年行われてきたが、時代の流れと共に実施されなくなっていた「商高体操」を平成24年度に復活させた。この体操は自己の身体のみを使って動きを表現し、身体の円満な発育を目標とした基本的な表現運動のため、体幹の締りや四肢の伸展を意識し、他者との協調性を表現できなければ全体が統一性を持った美しい演技を披露することができない。完成度の高さを目指して繰り返すことが体力の向上へつながり、発表後の達成感へとつながっている。

【商高体操】

②　集団行動

集団行動は全員で力を合わせ一つの目標に向かって作品を作り上げるマスゲーム様の行動である。一人ひとりが一つの点になり、縦横斜めのラインを形成して動きを加えるが、これも他者との協調性がなければ、統一性を持った美しい演技にはならない。２年生の保健体育の授業で取り組み、体育祭で披露する。

③　強歩大会

昭和50年度に体力づくりの一環としてはじまったもので、平成6年度を最後に実施されなくなっていたが、生徒の心身の健康づくりと地域への信頼回復を目的に平成24年度から再開した。再開した当時は女子27.0km、男子31.5kmだったが、近年は男女とも同じ距離26.2kmを歩く。4～7時間かけて、班員が励ましあって完歩する。9年経過した現在では、中継所やゴールで保護者や地域の方に温かいもてなしを受けるように変化している。

【強歩大会後の PTA 炊き出し】

(2)「生徒が主体となる活動」の実践

①　健康教育LHR、健康教育プロジェクト

10年間にわたり健康課題解決のための健康教育LHRを実施している。開始当時は健康課題が山積みであったため、6年程は「睡眠・食事・運動」をローテーションで実施した。その成果もあり次第に生活習慣が改善されてきたため、平成29年度から生徒の実態に合わせた健康課題をテーマに実施し、健康課題解決の手立てとしている。現在は保健委員を中心に健康教育プロジェクトを行っている。生徒の健康課題を解決する活動であり、健康教育LHRの企画運営やエイズデーの啓発活動を地域の関係機関等と連携して展開している。

「鳥商デパート」30日から2日間

今年も感謝の気持ち

商品多彩、スマホ決済も

【鳥商デパートの地元新聞記事】

②　鳥商デパート

鳥商デパートは本校教育の集大成であり、地域社会に認知された学校行事である。平成6年度から実施され、今年で27回目を迎える。3年間の商業教育の全てがデパート開催の2日間を支える。社長を筆頭に、販売部、管理部、イベント部、広報部と生徒主体の経営委員会を中心に組織され、各店舗の店長、会計係等全て生徒が主体となって、入念な準備をもって実施されている。

冬季実施のためインフルエンザやノロウイルス等の感染症予防に力を注ぐ。生徒は手洗いと換気を徹底し、お客様への手指消毒液を準備する。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、入場者を保護者に限定し入場前の検温や入念なアルコール消毒を促し、おもてなしと感染症対策を両立させた。鳥商デパートで養う「人間力を基底にしたビジネス実践力」は必ず将来社会に出て役に立つと信じてやまない。

【令和２年度鳥商デパート:ビニールシート越しの接客】

4　まとめ

継続は力なり。基礎体力を高める実践「商高体操」「集団行動」「強歩大会」と「生徒が主体となる活動」を通して心身の健康だけでなく、責任感･協調性･忍耐力･チャレンジ精神等を培えた。今では問題行動が少なくなっただけでなく、生徒の身だしなみやマナーアップ力は近隣学校の手本になる程になった。これらは検定等の資格取得率や高校卒業後の進路（就職率・進学率ともに希望者の100%）にも反映されている。

今後いかなる状況下になっても、生徒の心身の健康を第一に考え、これまでの健康づくりを継続しつつ、生徒が生き生きと笑顔で教育活動ができる環境を整えていきたい。

令和3年度 各地区ブロック大会報告

第42回東海ブロック学校保健研究大会（第69回愛知県学校保健研究大会）

「生涯を通じて、自ら健康に生きる力を育むことができる子供の育成」

期　　日：令和３年 10 月 13 日（水）～配信開始
開催方法：ライブ・録画配信（YouTube による限定配信）
内　　容：
（1）開会行事
　表彰紹介（永年勤続・学校保健会・健康推進学校）
（2）講演
　演題　「今とこれからを生きる君たちへ、
　　～学びの本質にせまるがん教育」
　講師　埼玉医科大学総合医療センター
　　教授　儀賀 理暁　氏
（3）研究発表
　令和２年度愛知県健康推進学校特別優秀校
　①西尾市立荻原小学校
　②津島市立暁中学校
　令和２年度日本学校保健会全国健康づくり推進学校最優秀校
　③愛知県立三好特別支援学校

本大会は、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ライブ配信形式により開催いたしました。また、録画配信にて御視聴いただく機会も設け、東海三県の学校保健関係者の多くの方に御参加いただきました。

講演では、埼玉医科大学総合医療センター教授の儀賀理暁様から、医師として関わられた患者さんや子供たちの姿を主題にして、がん教育に取り組まれた実践の紹介がありました。「がん教育は生き方を学ぶ教育であること」や外部講師と学校の連携の重要性についてお話しいただき、教員、外部講師、保護者など様々な視点から目指すべきがん教育の方向性を御教示いただくことができました。

研究発表では、３校の健康推進学校から特色ある実践とその成果について発表がありました。健康課題解決に向け、学校全体で組織的に取り組むこと、家庭・地域と連携することの大切さを再確認する機会となり、学校保健活動の推進に向け、実り多き会となりました。

第68回北海道学校保健・安全研究大会十勝（帯広）大会

生涯を通じて、心豊かにたくましく北の大地を生きる子どもの育成を目指して

－あおあお ひろびろ いきいき 開拓者精神が息づくまち とかち帯広から、子どものたちの未来へ向けて－

期　　日：令和３年 11 月 14 日（日）
　　～令和３年 11 月 21 日（日）
開催方法：動画配信による web 開催
内　　容：
基調講演「自分を傷つけずにいられない！
　　～自傷行為の理解と対応～」
　国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
　精神保健研究所薬物依存研究部部長　松本 俊彦　氏
実践発表
　第１テーマ　学校経営と組織活動
　第２テーマ　保健管理・保健教育、安全管理・安全教育
　第３テーマ　現代的健康課題
　第４テーマ　学校における新型コロナウイルス感染症への対応

当初は帯広市での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、動画配信によるＷＥＢ開催となりました。11月14日から1週間の限定公開で、北海道の学校保健関係者の皆様に御視聴いただきました。

いつもは大会の中で行われる学校保健功労者表彰式は実施出来ませんでしたが、今年は99名の方が学校保健功労者として表彰されました。

基調講演として、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長同センター病院薬物依存症センター長の松本俊彦氏から「自分を傷つけずにいられない！～自傷行為の理解と対応～」と題したご講演をいただきました。

また、「学校経営と組織活動」、「保健管理・保健教育、安全管理・安全教育」、「現代的健康課題」、「学校における新型コロナウイルス感染症への対応」の４つ実践発表が行われ、具体的な実践を知るよい機会となりました。

令和３年度全国学校保健・安全研究大会

生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進

－自他の健康で安全な生活の実現に向けて、主体的に取り組むことができる子供の育成－

期　　日：令和３年10月28日（木）、29日（金）
参加者数：約1,800人（ウェブ開催）
内容
【10月28日】
（１）開会式
（２）表彰式　学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大臣表彰
（３）記念講演
　演題：新型コロナウイルス感染症の現状と今後
　　－我々はこの感染症とどのように向き合っていくのか－
　講師：昭和大学医学部　内科学講座
　　臨床感染症学部門　客員教授　二木 芳人　氏
【10月29日】
（１）課題別研究協議会
　第１課題「学校経営と保健組織活動」
　第２課題「保健管理」
　第３課題「心の健康」
　第４課題「現代的健康課題」
　第５課題「歯・口の健康づくり」
　第６課題「学校環境衛生」
　第７課題「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育」
　第８課題「学校事故防止対策」
　第９課題「教科等における安全教育」
　第10課題「関係機関等との連携による安全の体制整備」
（２）全国学校保健会中央大会（誌上開催）

１　概要

令和３年10月28日、29日に岡山県において「全国学校保健・安全研究大会」を開催しました。

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもたちの心身の健康にも大きな影響を与えており、これらの課題解決を図るための学校や、家庭・地域が一体となった取組の研究成果等を踏まえ、これらの諸課題について研究協議を行い、学校保健・学校安全の充実発展に資することを目的に、毎年、都道府県持ち回りで開催しています。

岡山県におきましては、昭和46年に開催して以来、50年ぶり２回目の開催となります。

今般の新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、ウェブでの開催となりましたが、1,800人を超える参加をいただき、盛大に開催することができました。

２　全体会

大会初日は、全体会として、開会式、表彰式、記念講演を行いました。

表彰式では、学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大臣表彰が行われました。学校保健関係として、学校医65名、学校歯科医48名、学校薬剤師30名、校長５名、養護教諭６名、学校20校、学校安全関係として個人1名、学校26校、学校安全ボランティア活動奨励賞として27団体が表彰され、代表として岡山県の受賞者に表彰状が授与されました。

記念講演では、講師に昭和大学医学部客員教授の二木芳人先生をお招きし、「新型コロナウイルス感染症の現状と今後」と題して、御講演をいただきました。

３　課題別研究協議会

２日目の課題別研究協議会では、10課題に分かれ、それぞれの会場で研究協議題のもと、学識者の講義と３人の研究発表者による学校保健・安全活動の実践報告等が行われ、実り多い大会となりました。

令和３年度 全国健康づくり推進学校表彰校一覧

最優秀校　5校

小学校	群馬県	高崎市立矢中小学校
	岐阜県	岐阜市立茜部小学校
	熊本市	熊本市立城東小学校
中学校	熊本市	熊本市立三和中学校
特別支援学校	大阪府	大阪府立とりかい高等支援学校

優　秀　校　10校

小学校	栃木県	小山市立豊田北小学校
	埼玉県	春日部市立牛島小学校
	岐阜県	恵那市立上矢作小学校
	愛知県	蒲郡市立大塚小学校
	北九州市	北九州市立清水小学校
	熊本市	熊本市立砂取小学校
中学校	山形県	村山市立楯岡中学校
	群馬県	高崎市立高松中学校
高等学校	千葉県	千葉県立実籾高等学校
特別支援学校	青森県	青森県立青森第二高等養護学校

特別協賛者賞 優秀校より　2校

埼玉県	春日部市立牛島小学校
山形県	村山市立楯岡中学校

優　良　校　45校

小学校	1	青森県	青森市立新城中央小学校
	2	青森県	板柳町立板柳南小学校
	3	青森県	弘前市立大和沢小学校
	4	茨城県	稲敷市立江戸崎小学校
	5	埼玉県	久喜市立菖蒲小学校
	6	埼玉県	戸田市立戸田第二小学校
	7	東京都	豊島区立仰高小学校
	8	東京都	練馬区立光が丘夏の雲小学校
	9	東京都	八王子市立由木中央小学校
	10	富山県	高岡市立伏木小学校
	11	山梨県	甲州市立祝小学校
	12	岐阜県	各務原市立鵜沼第一小学校
	13	愛知県	大治町立大治西小学校
	14	岡山県	吉備中央町立上竹荘小学校
	15	広島県	府中町立府中南小学校
	16	香川県	坂出市立瀬居小学校
	17	愛媛県	西条市立禎瑞小学校
	18	長崎県	平戸市立山田小学校
	19	熊本県	玉名市立伊倉小学校
	20	熊本県	長洲町立腹赤小学校
	21	鹿児島県	鹿屋市立大姶良小学校
	22	鹿児島県	鹿児島市立武小学校
	23	鹿児島県	鹿児島市立和田小学校
	24	京都市	京都市立凌風小中学校
	25	神戸市	神戸市立小寺小学校
	26	新潟市	新潟市立坂井輪小学校
	27	岡山市	岡山市立建部小学校
	28	熊本市	熊本市立白山小学校
中学校	1	青森県	八戸市立明治中学校
	2	茨城県	大洗町立南中学校
	3	栃木県	那須塩原市立日新中学校
	4	埼玉県	幸手市立東中学校
	5	東京都	八王子市立鑓水中学校
	6	石川県	小松市立板津中学校
	7	山梨県	富士河口湖町立勝山中学校
	8	長野県	長野市立柳町中学校
	9	岐阜県	北方町立北方中学校
	10	愛知県	新城市立新城中学校
	11	京都府	舞鶴市立城南中学校
	12	京都市	京都市立洛南中学校
	13	神戸市	神戸市立原田中学校
高等学校	1	栃木県	栃木県立宇都宮北高等学校
	2	兵庫県	兵庫県立兵庫高等学校
特別支援学校	1	愛知県	豊田市立豊田特別支援学校
	2	大分県	大分県立大分支援学校

受賞校の皆様、おめでとうございます

全国健康づくり推進学校表彰式は
2月5日（土）日本医師会館にて挙行します。
（最優秀校・優秀校のみの参加とし、一般参加なし）
令和4年度も全国からたくさんのご応募をお待ちしています

＊学校保健ポータルサイト会員ページログイン（ネットDE研修登録用）
新規会員登録用パスワード　gh2011

虎ノ門（172）

いつの日か花を咲かそう

今年のノーベル物理学賞は、真鍋叔郎博士が受賞しました。50年も前にまだ誰も関心がなかった地球温暖化のメカニズムを解明した業績です。気候変動の予測モデルとして、二酸化炭素濃度と大気温度の関係を突き止め、気候研究の基礎を築きました。近年、日本でも真夏日が多く観測され、台風はその規模が大きくなり、多くの災害をもたらしています。地球環境問題そのものが受賞対象となったことは、その問題解決を促すという点で大きな意義があります。

ノーベル賞の自然科学では、日本はすでに25名を超える受賞者を数え、2000年以降は、20名とアメリカに次いで２位を英国と競い合っています。日本の美しい自然と我慢強い精神を尊ぶ風土から多くの自然科学の研究が生まれました。今の日本では科学分野に進む研究者が少なく、博士課程進学者も半減し、日本人の論文の質と量の低下は国際的な話題となっています。いつの日か花を咲かせるかもしれないという研究に好奇心を抱く若者を育てていかなくてはなりません。

（会報『学校保健』編集委員　山田　正興）

学校における飲酒酒防止教育支援研修会（オンデマンド開催）

期　間：令和４年３月11日まで
対　象：学校教育関係者

参加費無料

QRコードより ➡
お申込みください

令和３年度「学校保健用品・図書等推薦」一覧

推薦期間：～令和４年３月31日

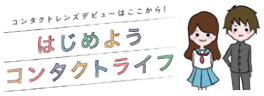
品　目	摘　要	会　社　名
映るんグレー黒板	映写兼用黒板	株式会社青井黒板製作所
ナノホワイトボード（マーカーボード）	映写兼用ホワイトボード	株式会社青井黒板製作所

Menicon

コンタクトレンズや瞳に関するホームページをご用意いたしました!
学校でのご指導にぜひお役立てください。

おすすめコンテンツ

1 はじめてガイド
コンタクトレンズの魅力や種類、使い方などをわかりやすく紹介し、コンタクトレンズデビューを応援するコンテンツ。



2 うんこ先生と学ぶ!
はじめてのコンタクトレンズ
メニコンと「うんこドリル」が合体!うんこ先生といっしょに「目」について楽しく学べる特設サイトとゲームを公開。

3 #カラコンのコレカラ
目の安全を守りながら健康的にカラコン(カラーコンタクト・サークルレンズ)を楽しむための情報発信サイト。

詳しくはこちら　https://www.menicon.co.jp/gh/　メニコン　学校保健　で　検索

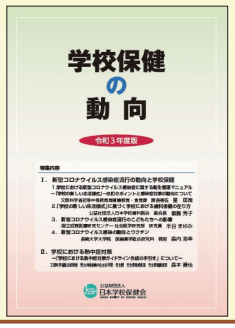
学校保健の最新情報を満載　一般書店等でも購入できます！

令和３年度版　学校保健の動向

特　集　新型コロナウイルス感染症流行の動向と学校保健ほか

第１章　健康管理の動向　感染症、児童生徒の発育・発達、眼科等科目別ほか
第２章　学校環境衛生の動向　学校環境衛生、学校給食の衛生管理
第３章　健康教育の動向　保健教育、安全教育、食育、エイズ・性教育ほか
第４章　学校保健に関する組織・団体の最近の動向
第５章　資料編　学校保健関連年表

■養護教諭、大学関係者必携　■養護教諭養成課程の学生の採用試験対策としても最適



発行／日本学校保健会
2,800円（＋税）

第79回 全国小学生歯みがき大会

＼歯と自分をみがこう／
全国の小学生と一緒に学ぶ歯と口の健康

大会期間
2022年
6/1(水)～10(金)

申込期間
2022年
1/5(水) 10:00～2/28(月) 24:00

申込方法
ライオン歯科衛生研究所ホームページへ!
全国小学生歯みがき大会　バナーをクリック!

歯みがき大会の活用例
学校で　40分　DVDで参加!　歯みがき学習
ご家庭で　WEB配信で参加!　歯みがき実習

開催概要
参加対象　小学校5年生　※4年生・6年生でも参加いただけます。※いずれか1学年の参加となります。
定員　5,000校 / 290,000人（先着順）
参加費用　無料　※使用する教材（児童用ドリル、歯ブラシ、デンタルフロスなど）も無償で提供します。

主催　(公社)日本学校歯科医会 / (一財) 東京都学校保健会 / ライオン株式会社 / (公財) ライオン歯科衛生研究所
後援　文部科学省 / 東京都教育委員会 /(公財)日本学校保健会 /(公社)日本歯科医師会 /(公社)東京都歯科医師会 /(公社)東京都学校歯科医会 /(公社)日本歯科衛生士会

第79回全国小学生歯みがき大会事務局
（受付期間：2022年1/5～6/30 ※平日9時～17時）
0120(253)641　contact@hamigakitaikai.net

発行者　(公財)日本学校保健会
会　長　中川　俊男
編　集　会報「学校保健」編集委員会
委員長　弓倉　整

〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-3-17
虎ノ門２丁目タワー６階
電話　03（3501）0968
FAX　03（3592）3898

年６回奇数月１日発行
頒価 1,000 円（年間購読）